

トチュウ (杜仲)

語源

杜仲は、「本草綱目」によれば、杜仲の木の皮を砕いて煎じたものを毎日飲んでいた仙人の名前が「杜仲」であったことにちなむとされている。ちなみに、杜仲の樹皮は古来より薬用に用いられてきたが、昭和50年代に長野県上伊那郡の農家が、トチュウの葉を「杜仲茶」として商品化することをはじめた。現在では、杜仲茶に含まれる杜仲葉配糖体（ゲニポシド酸）が「血圧コントロール」に関わる成分として、特定保健用食品（特保）として扱われている。

基原

トチュウ *Eucommia ulmoides*
トチュウ科 落葉高木

薬用部分

樹皮

産地

中国、韓国、日本

主な薬効

強壮、強精、鎮痛

主な成分

グッタペルカ
※トチュウの葉や樹皮を折り取ると、ゴム状の白い糸が伸びる。これを「グッタペルカ」と呼んでいるが、グッタペルカは本来、スマトラやボルネオといった熱帯に分布する、アカテツ科の常緑高木「グッタペルカノキ (*Palaquium gutta*)」を指す。トチュウの葉や樹皮から出る物質が、グッタペルカノキの出す乳液・樹脂と似ていたため、「グッタペルカ」と呼ばれるようになった。

リグナン配糖体： ピノレシノール、ピノレシノールジグルコシド
イリドイド配糖体： アウクビン、ゲニポシド、ゲニポシド酸

代表的処方

古来強壮、鎮痛薬としてインポテンツ、膝関節痛、妊婦の腰重、高血圧に用いる。

【大 防 風 湯】

ダイボウフウトウ

筋肉麻痺、あるいは、膝腿痛、脊髄疾患、半身不随、脚気に用いる。

(処方内容) 当帰／芍薬／熟地黄／黄耆／防風／杜仲／朮／川芎／人参／羌活／牛膝／甘草／大棗／乾姜／附子

【瘵 証 方】

イショウホウ

下肢の麻痺、小児麻痺、中枢および脊髄性麻痺、脊髄カリエスに用いる。

(処方内容) 当帰／熟地黄／芍薬／牛膝／蒼朮／知母／黄耆／杜仲／黄柏

文献報告

【抗アルツハイマー】

Neuroprotective effects of *Eucommia ulmoides* Oliv. Bark on amyloid beta(25-35)-induced learning and memory impairments in mice.

Neurosci Lett. 2011,487,123-7

【男性ホルモン増強】

Novel phytoandrogens and lipidic augments from *Eucommia ulmoides*.

BMC Complement Altern Med. 2007,7,3

※参考文献：「生薬単」「漢方実用大事典」「和漢薬の事典」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



photo by KENPEI CC-BY-SA, from Wikimedia Commons



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562
URL: www.fukudaryu.co.jp